



『VIEW next』高校版の創刊号である本号の表紙は、『VIEW21』高校版2020年4月号以来1年ぶりに、教師・生徒の写真が飾りました。撮影時の課題となったのが、ソーシャルディスタンスの確保です。そこで活躍したのが、学校にあったちょうど1メートルの長さの棒。構図やポーズを変える度に、カメラマンが発する「チェックお願いします!」の呼びかけに編集部員が走っていき、先生・生徒それぞれが距離を保っているか、その棒を使って確認をしながら撮影しました。その甲斐あってか(?)、物理的な距離は保ちつつも、先生と生徒の心の距離の近さが感じられる表紙に仕上がったのではないかと考えています。(朝比奈)



VIEWnext
電子ブック 高校版は

電子ブックで閲覧可能です

VIEWnext 高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号～21年2月号は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

<https://berd.benesse.jp>

VIEWnext

高校版 2021年6月号

6月21日発行
(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発行です

先生方からのご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2021年2月号へのご意見

誌面の先生方と対話をしている気持ちに

2月号の特別企画で、『VIEW21』の軌跡と先生方の思いを載せた記事を読み、今あまりできていない対話を先生方としている気持ちになった。改めて、学校外においてもアンテナを張ることで、自身の見識を広めることがとても大切だと感じた。 埼玉県・私立東京農業大学第三高校 小堀健一

生徒総会での校則改正の議論の参考に

2月号の特集の宮崎県立宮崎大宮高校の記事は、本校の生徒総会が目標とする状態を示しており、参考になった。本校では、同校の携帯電話の議論と同様に、生徒総会で「置き勉」(教科書を自宅に持ち帰らないこと)禁止を解除する校則改正について議論中だ。生徒会長に本記事を早速渡し、参考にするよう伝えるのと同時に、2022年度の入学希望者向け学校説明会で、生徒会活動について説明しようと提案した。

大阪府立八尾高校 中村泰造

特別活動は扇の「要」

2月号の特集の座談会で長野県蘇南^{そなん}高校の小川幸司校長が述べていた、特別活動での生徒の努力や成長について言語化することの有用性にとっても共感した。新学習指導要領の解説にある通り、特別活動は各教科・科目を束ねる扇の「要」であり、非常に重要だ。生徒への指導では、教師自身の専門分野だけではなく、そこで培った知識や力を生かす特別活動でも自分の能力を発揮したい。

北海道 匿名希望

安心して意見を述べられる雰囲気不可欠

ホームルーム活動の他校の取り組みを知る機会は少ないので、2月号の特集で紹介された事例は参考になった。主体的・対話的で深い学びを促す授業を行うためには、安心して意見を述べられる雰囲気をクラスに醸成することが不可欠。ホームルーム活動は、若手教師への指導も含めて、学校全体として取り組むべきだろう。

千葉県立銚子商業高校 田中三郎

若手教師が自由に語り合う場が大切

2月号の「若手教師・教育創造 MTG」にあった「自由に語り合える場」は、どの職場でも大切なことである。臨時休業によって対面授業ができない状況下で柔軟に対応したのは若手教師だった。オンライン授業を工夫・改善し、周りの教師に教えたり、アドバイスを求めたりと、中心となって活躍していた。柔軟さで勝る若手教師が自由に語り合える場は、学校経営に大いに役に立つ。

富山県 匿名希望

国や地域の独自性を際立たせるグローバル化

2月号の「これからの進路指導のための世の中トレンド解説」を読み、「グローバル化は、世界の同質化を推し進める半面、それぞれの国や地域の独自性を際立たせる一面もある」という解説に新たな気づきももらった。例えば、海外の留学生と日本人学生の間には、前向きな行動力やハングリー精神などで差があると感じている。普段、高校生に何を教育していくかを考えさせられた。

静岡県 匿名希望